



一宮町長
馬淵 昌也

釣ヶ崎海岸がオリンピックピックのサーフィン競技会場に決まった後、いったいどういったことが決まったのだろう。町の皆さんは、こうした疑問をお持ちだと思います。実は、まだあまり多くのことは明らかにできていないのですが、2月28日現在でわかる範囲でご報告します。

まず、会場については、以下のような状況です。現在、オリンピック組織委員会・千葉県・一宮町の三者で協議を行っています。釣ヶ崎海岸には町有地があり、鳥居が立っています。その周辺の県有地である保安林の一部を用いて、仮設と恒久的な建物が設営される予定です。保安林をどう使うかが、現在の協議の焦点です。また、千葉県は、保安林の指定を一定程度解除して、オリンピック後に自然公園とするという構想もっており、29年度に予定地の環境調査などを行う予定です。ただ、設営する施設・建物などの詳細は、いまだ全く決まっておられません。したがって、町の金銭負担のことも、いまだ具体的な話には全く至っておりません。

ソフト関係では、町の内部と外部に、オリンピックの効果を最大に引き出すために、「おもてなし」のあり方を考えることを目的として、協議会を立ち上げてゆく運びとなっています。現在、

関連各方面とアイデアをすり合わせている段階ですので、まもなく皆さんにプランをお示しできると思っています。また、オリンピックをにらみつつ、さらにその後までの町の盛り上げの企画を立案し実施していただくために、町では百人委員会的な会を組織してゆきたいと考えております。お一人でも多くの町民の方に、ともにオリンピックの任務、そしてその後の町の盛り上げを担うお仲間になっていただきたいのです。

オリンピックは、確かに、組織委員会やJOC・IOCなどが中心になつて行う国際競技大会ととらえるべきなのでしょう。しかし、オリンピックの下支え、周辺からのサポートは、私も地元が行うべき任務として位置づけられています。皆さんとともに、「われわれの」オリンピックでもあることが実感できるような取り組みをしてゆきたいと考えます。

ここに挙げた事項以外にも、輸送・宿泊・医療・セキュリティなど、オリンピックに関連する事柄がいくつもあります。これらの多くは、組織委員会を中心に計画を策定することになることが予想されますが、これらについても、今後わかり次第随時ご報告します。